

平成21年度

香川県男女共同参画社会に関する意識調査

(概要版)



はじめに

本格的な人口減少社会の到来や、少子高齢化の進展、雇用・就業をめぐる変化、家族形態やライフスタイルの多様化など、地域社会が急速に変化する中、豊かで活力のある郷土香川を築いていくためには、男女が互いに人権を尊重し、責任を分かち合い、個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会を実現していくことが重要です。

本県では、「香川県男女共同参画推進条例」を基本指針とした「かがわ男女共同参画プラン（後期計画）（2006～2010）」に沿って様々な施策を推進し、県内の各自治体において条例の制定や計画の策定が進んでいることや審議会等に占める女性の割合が増加していることなど、男女共同参画社会の形成に向けた動きは徐々に広がっています。

しかしながら、女性の参画促進や、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現、女性に対する暴力の根絶など、更なる取組みが必要な課題も数多くあります。

本調査は、県民の皆様に男女の役割と平等意識などについての考え方やご意見をお伺いし、次期の男女共同参画計画を策定するうえでの基礎資料とするとともに、男女共同参画施策推進の参考資料とすることを目的として実施したものです。

県といたしましては、この調査結果を分析し、今後とも男女共同参画社会の実現に向けた施策に積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

終わりに、この調査にご協力をいただきました県民の皆さまに厚くお礼を申し上げます。

平成 22 年 3 月

香川県総務部長
中山 貢

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査目的	1
2.	調査項目	1
3.	調査設計	1
4.	回収状況	1
II	調査回答者の属性	2
III	調査の集計結果	4
1.	家庭生活などについて	4
2.	男女の平等と役割について	8
3.	女性の社会進出について	10
4.	就労について	13
5.	ワーク・ライフ・バランスについて	16
6.	男女間における暴力について	19
7.	男女共同参画社会の形成について	27

I 調査の概要

1. 調査目的

男女共同参画社会に関する県民の意識と生活実態を把握し、「男女共同参画計画」策定の基礎データとするとともに、今後の男女共同参画施策推進の参考資料とする。

2. 調査項目

- (1) 家庭生活などについて
- (2) 男女の平等と役割について
- (3) 女性の社会進出について
- (4) 就労について
- (5) ワーク・ライフ・バランスについて
- (6) 男女間における暴力について
- (7) 男女共同参画社会の形成について

3. 調査設計

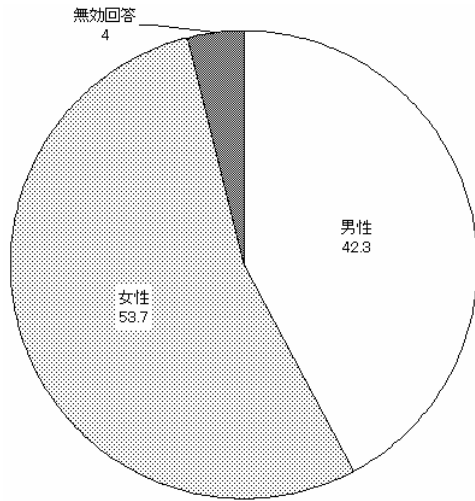
- (1) 調査地域 香川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の20歳以上の男女
- (3) 標本数 3,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査法 郵送法
- (6) 調査時期 平成21年12月8日～平成22年1月8日

4. 回収状況

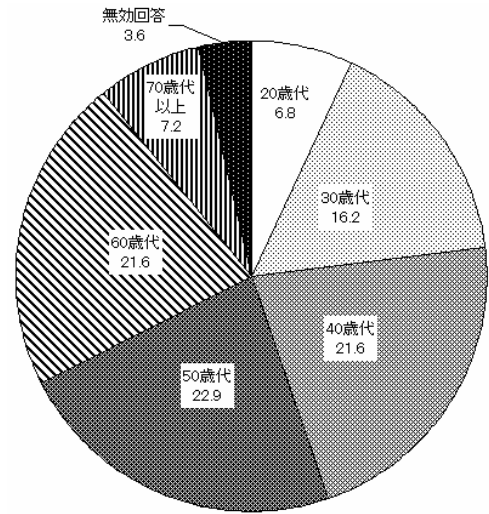
- (1) 標本数 3,000
- (2) 有効回収数 795 (26.5%)

II 調査回答者の属性

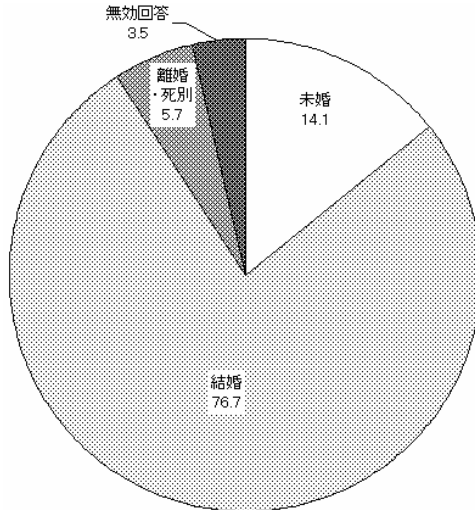
1. 性別



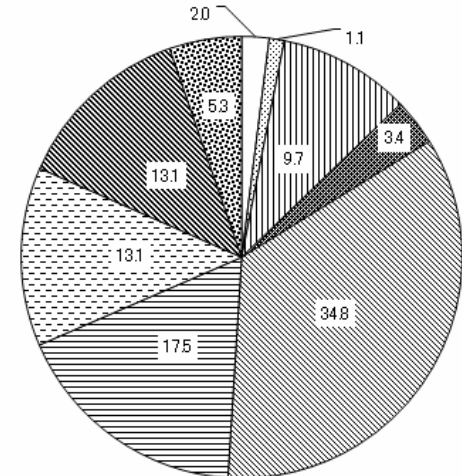
2. 年齢



3. 婚姻

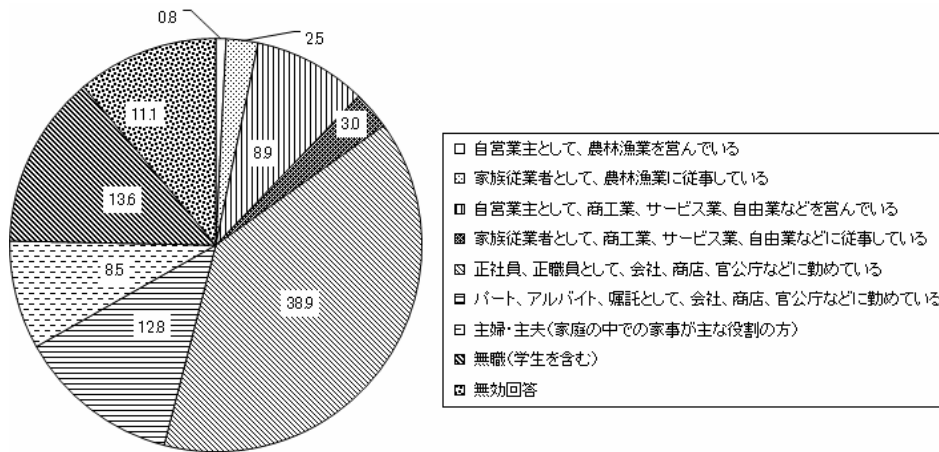


4. 職業

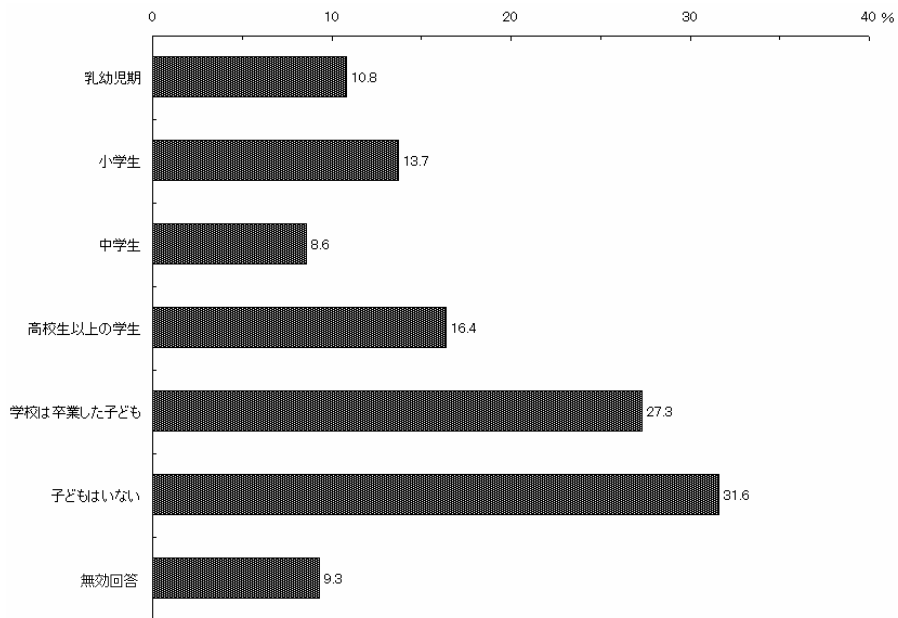


- 自営業主として、農林漁業を営んでいる
- ▣ 家族従業者として、農林漁業に従事している
- ▤ 自営業主として、商工業、サービス業、自由業などを営んでいる
- ▥ 家族従業者として、商工業、サービス業、自由業などに従事している
- ▦ 正社員、正職員として、会社、商店、官公庁などに勤めている
- ▧ パート、アルバイト、嘱託として、会社、商店、官公庁などに勤めている
- ▨ 主婦・主夫(家庭の中での家事が主な役割の方)
- ▩ 無職(学生を含む)
- 無効回答

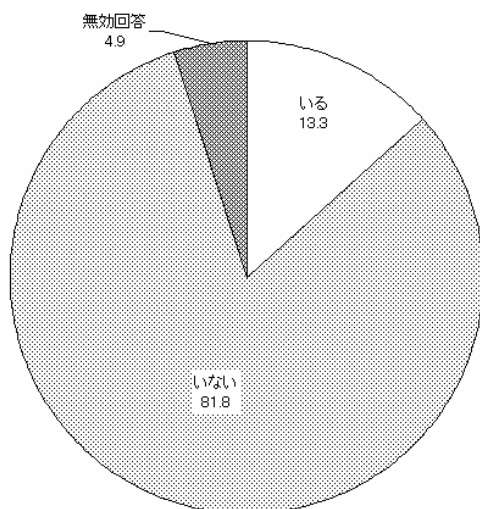
5. 配偶者の職業(既婚者のみ)



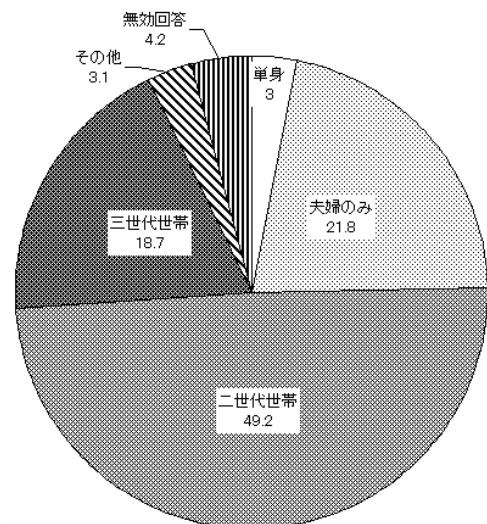
6. 家族構成(子供について)



7. 要介護者の有無



8. 世帯構成



Ⅲ 調査の集計結果

1. 家庭生活などについて

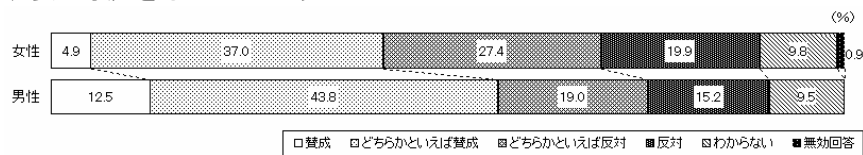
(1) 家庭生活と家族観（男女の役割）

問1 家庭生活と家族観（男女の役割）について、あなたはどのようにお考えですか。

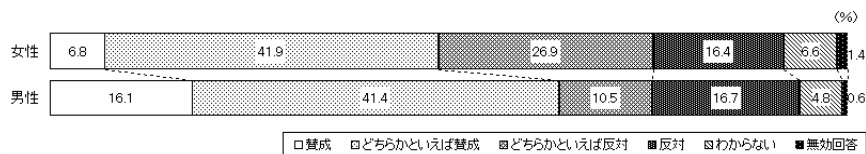
【〇はそれぞれ1つつつ】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、女性では反対が賛成を上回り、男性では賛成が反対を上回った。

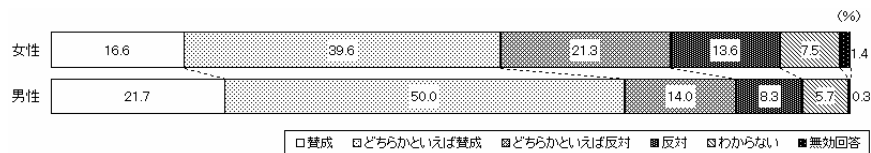
① 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



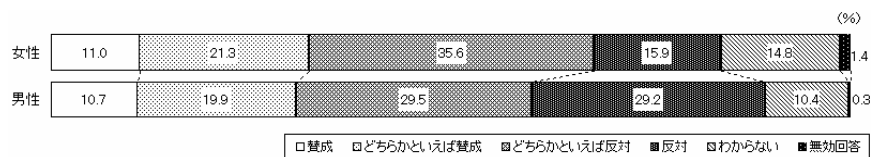
② 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい



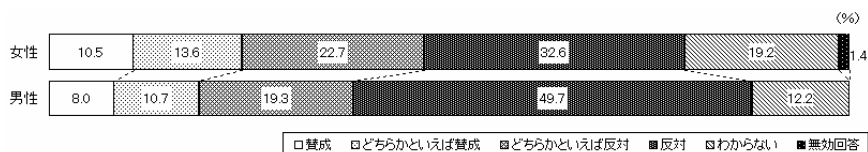
③ 女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児・介護はきちんとすべきである



④ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい



⑤ 夫婦が別々の姓を選択できるようにした方がよい

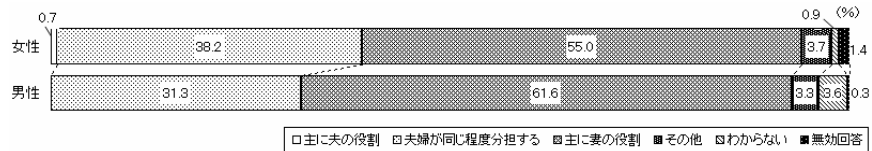


(2) 家庭での夫と妻の役割分担の希望

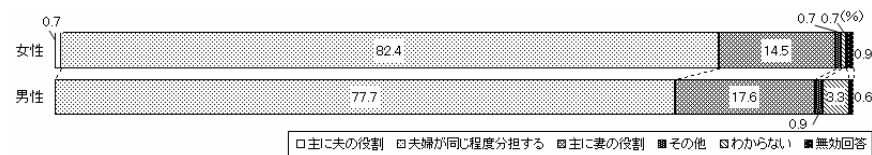
問2 家庭での夫と妻の役割分担について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。
 【〇はそれぞれ1つつつ】

「炊事、洗濯、掃除などの家事」は妻、「収入を得ること」は夫、「子どもの世話、しつけや教育」「親などの介護」「地域の行事、自治会、PTAなどの地域活動」は夫婦で分担を希望するという回答が多くなっている。

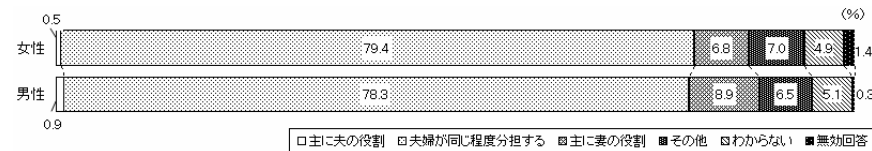
①炊事、洗濯、掃除などの家事



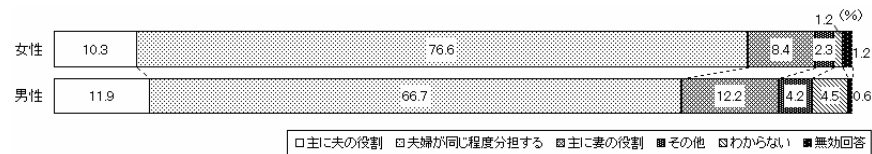
②子どもの世話、しつけや教育



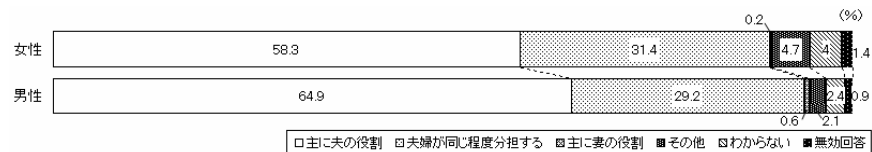
③親などの介護



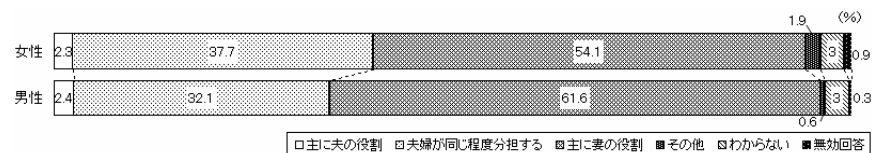
④地域の行事、自治会、PTAなどの地域活動



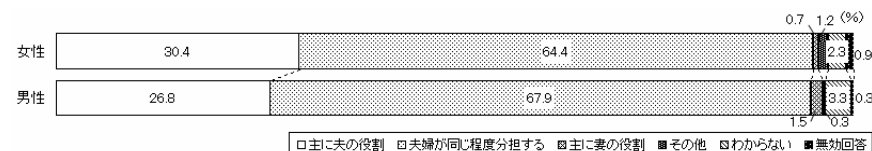
⑤収入を得ること



⑥家計の管理



⑦高額な商品や土地、家屋の購入の決定



(3) 家庭での夫と妻の役割分担の現状

現在、ご結婚されている方のみお答えください。

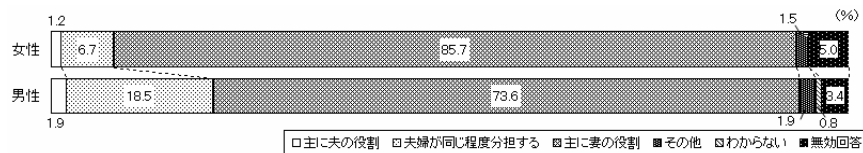
その他の方は問4へ進んでください。

問3 あなたの家庭での夫と妻の役割分担について、現状に最も近いものはどれですか。

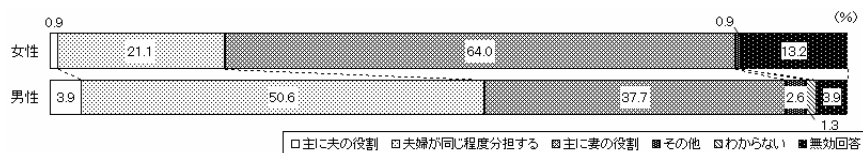
【〇はそれぞれ1つつ】

「炊事、洗濯、掃除などの家事」は妻の役割、「収入を得ること」は夫の役割、「子どもの世話、しつけや教育」「親などの介護」「地域の行事、自治会、PTAなどの地域活動」については、女性では「主に妻の役割」が多いのに対し、男性では「夫婦が同じ程度分担」が多くなっている。

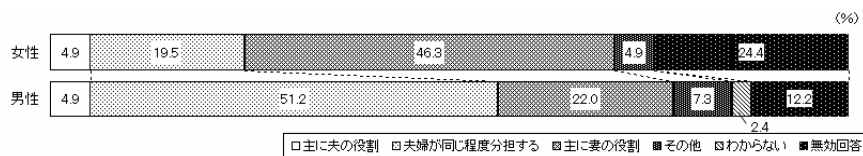
①炊事、洗濯、掃除などの家事



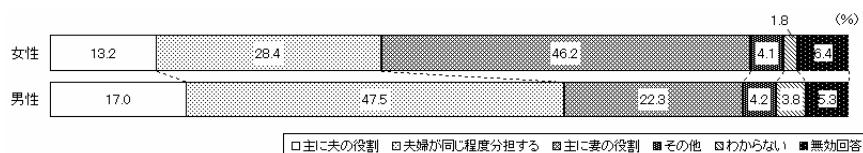
②子どもの世話、しつけや教育（中学生以下の子どもがいる場合）



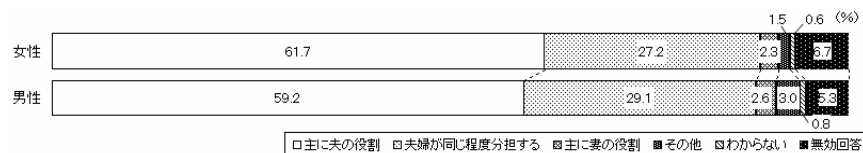
③親などの介護（介護を必要とする方がいる場合）



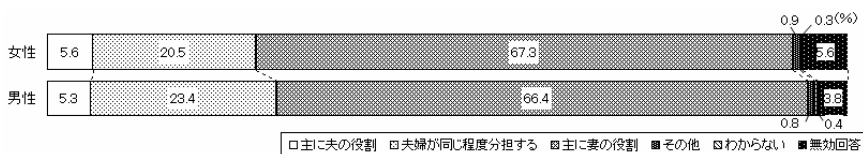
④地域の行事、自治会、PTAなどの地域活動



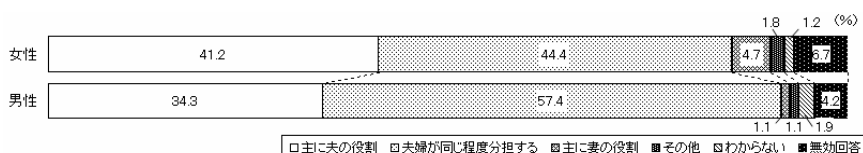
⑤収入を得ること



⑥家計の管理



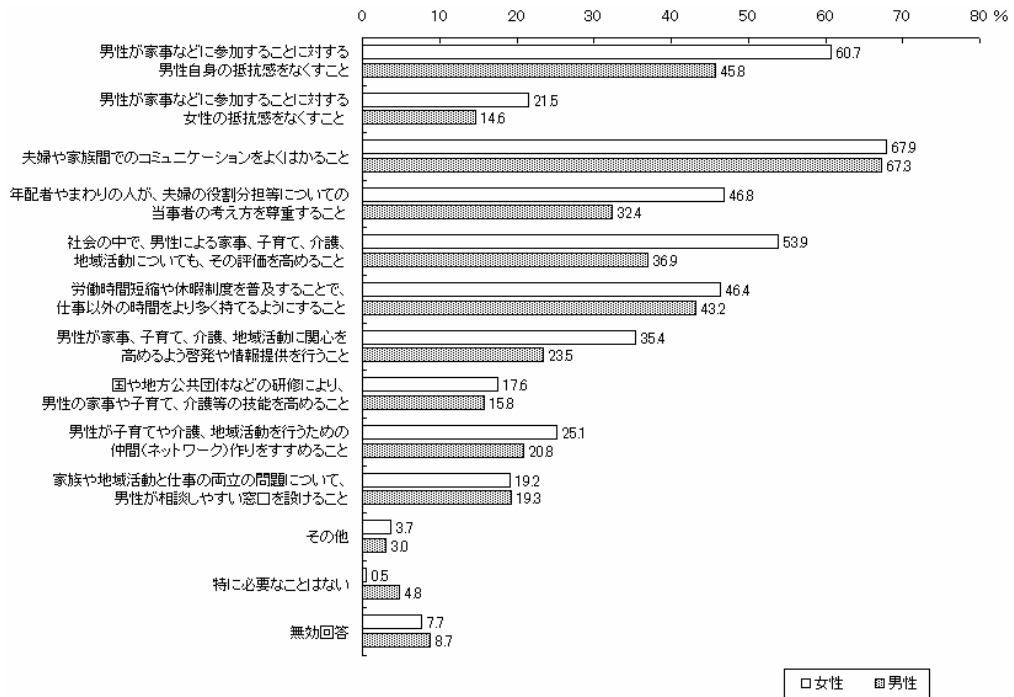
⑦高額な商品や土地、家屋の購入の決定



(4) 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

問4 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。 【〇はいくつでも】

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多くなっている。



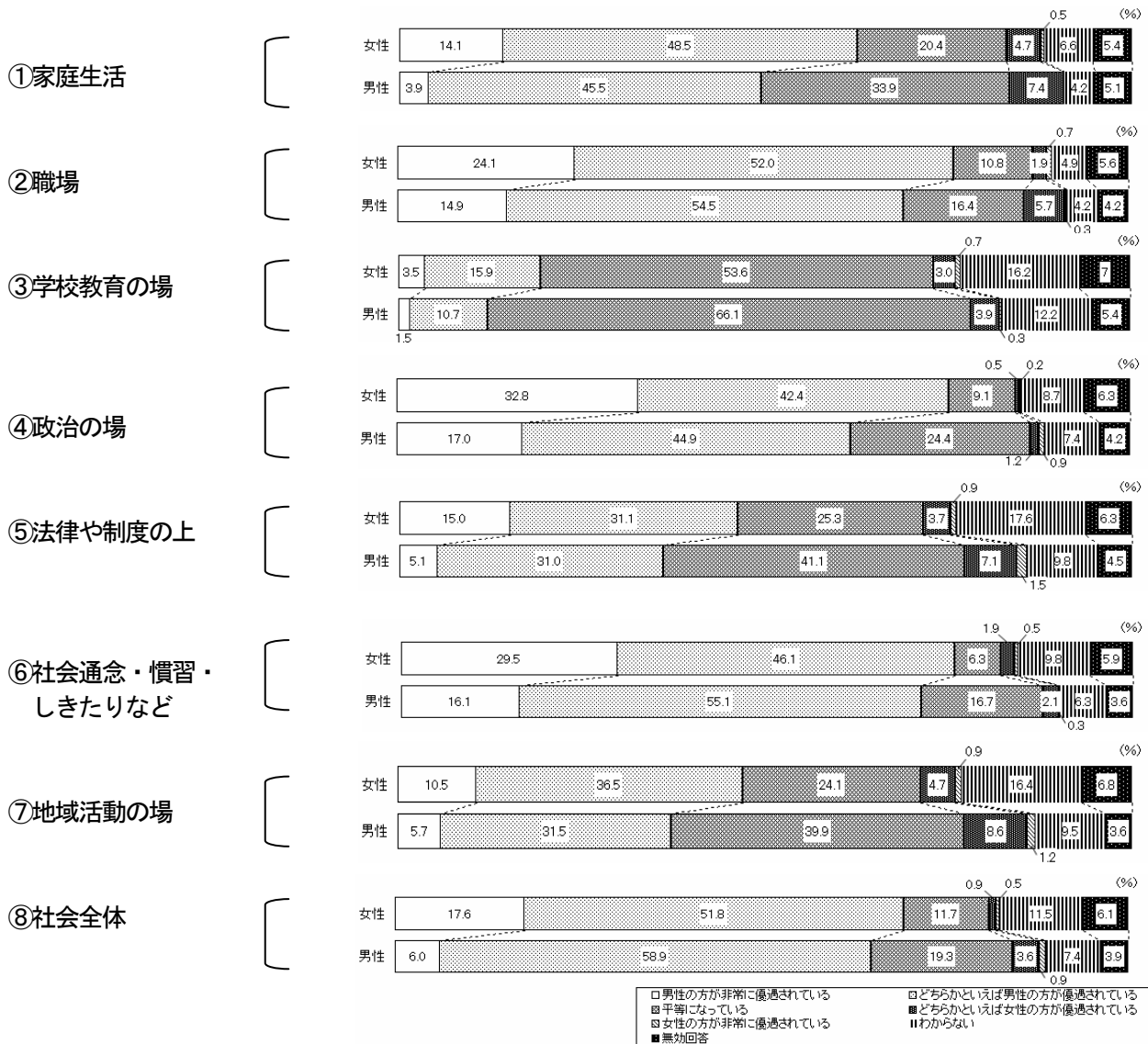
2. 男女の平等と役割について

(1) 各分野の男女の地位の平等感

問5 あなたは、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

【〇はそれぞれ1つずつ】

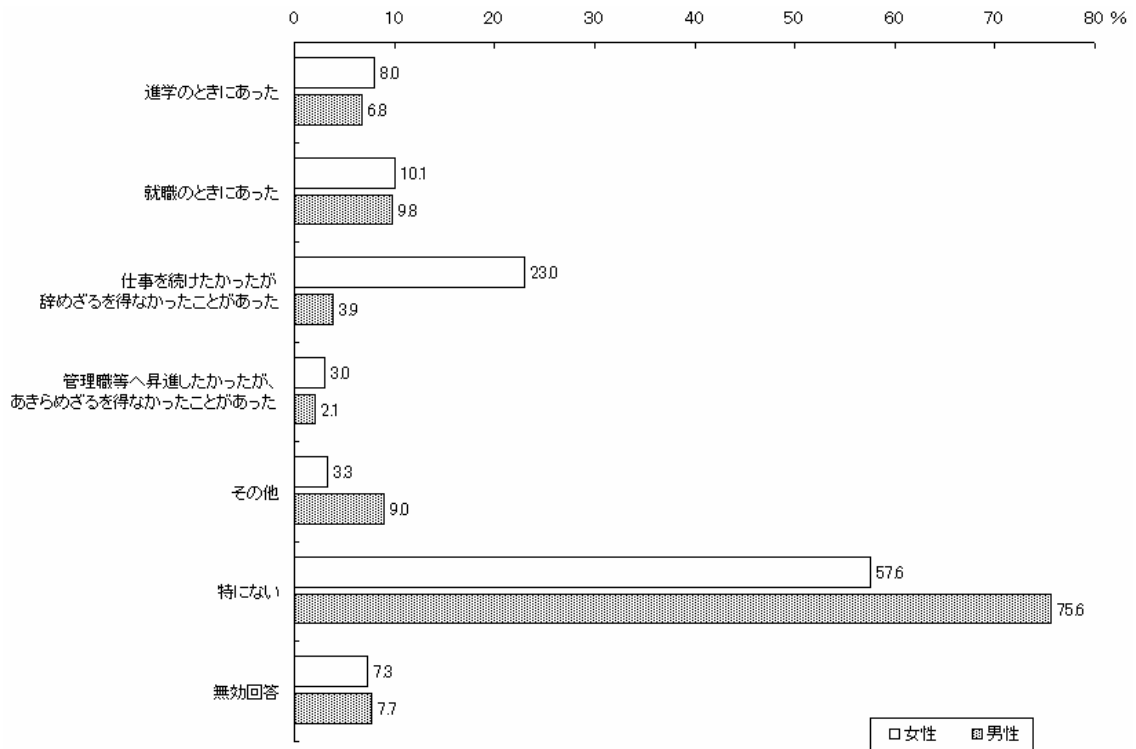
「学校教育の場」以外において男性優遇と感じている人が多くなっている。



(2) 男女間の固定的な先入観を理由に、自分の希望と違う選択をせざるをえなかった経験について

問6 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」、「男子生徒は理系、女子生徒は文系を選ぶべき」といった、男女間の固定的な先入観を理由に、自分の希望とは違う選択をせざるをえなかったことがありますか。
【〇はいくつでも】

女性で「仕事を続けたかったが、辞めざるを得なかった」との回答が多くなっている。



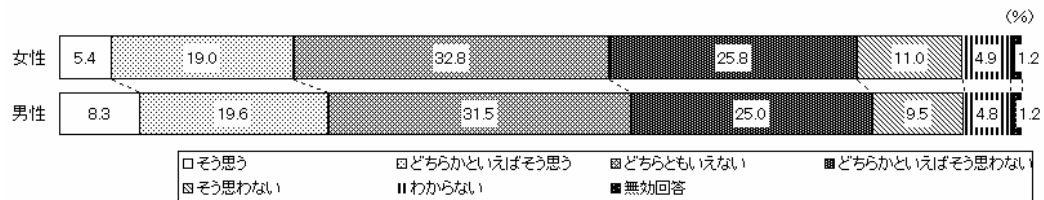
3. 女性の社会進出について

(1) 社会における女性の能力の活用について

問7 あなたは、社会において、女性の能力は十分活用されていると思いますか。

【〇は1つ】

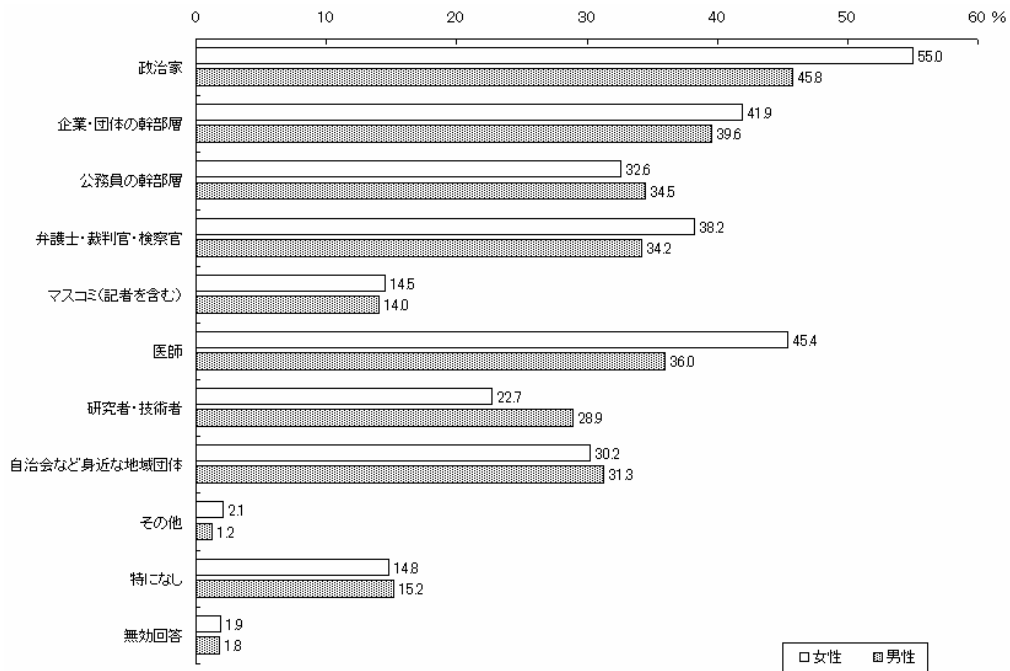
女性の能力の活用は不十分という回答が、活用されているという回答を上回っている。



(2) 女性の参画が必要と思われる分野

問8 あなたは、今後、女性の参画が必要と思われる分野は、どのような分野だと思いますか。
 【〇はいくつでも】

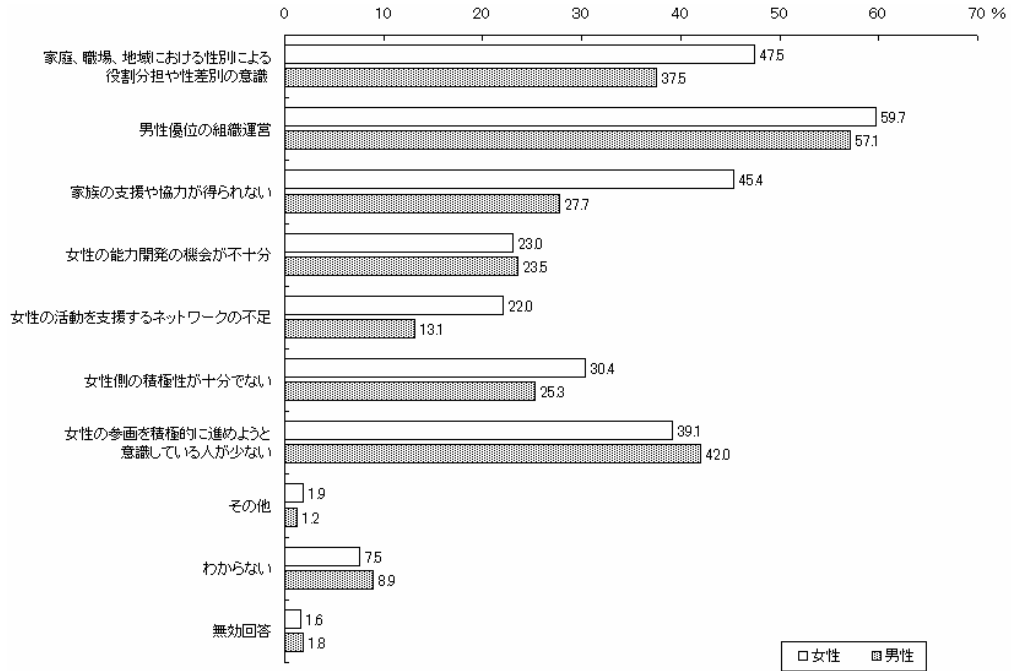
女性の参画が必要な分野として、男女とも政治家が最も多くなっている。



(3) 政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由

問9 あなたは、政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。 【〇はいくつでも】

男女とも約6割が「男性優位の組織運営」を挙げている。

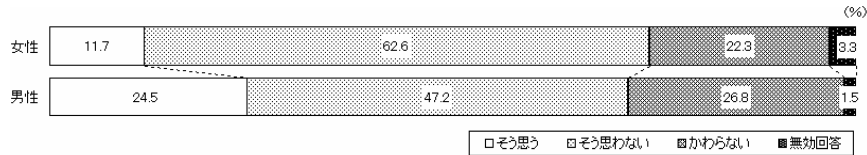


4. 就労について

(1) 10年後、現在より難しい仕事を行っていると思うかどうかについて

問10 あなたは、自分が10年後、現在より高い職責にあたり、高い技術を身につけることなどにより、難しい仕事を行っていると思いますか。 【〇は1つ】

現在より難しい仕事を行っていると考える女性は男性の半数以下となっている。

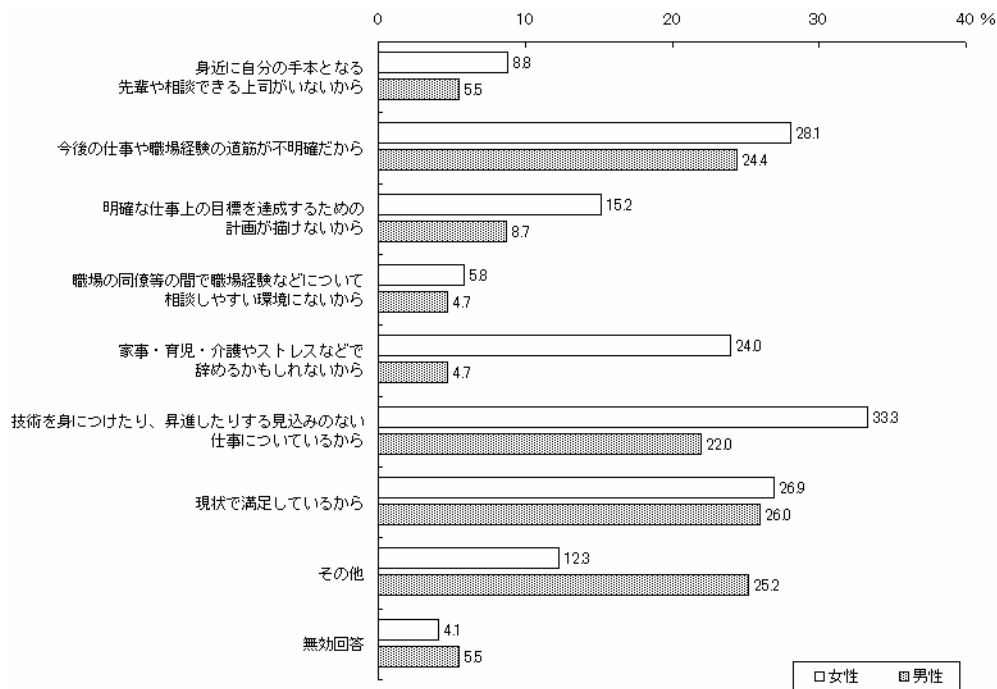


(2) 10年後、現在より難しい仕事を行っていると思わない理由

問10で「2 そう思わない」を選んだ方のみお答えください。
 その他の方は問12へ進んでください。

問11 それはなぜですか。 【〇はいくつでも】

現在より難しい仕事を行っていると思わない理由は、男女とも「今後の仕事や職場経験の道筋が不明確だから」「現状で満足しているから」が多い。また、女性は男性と比べ「技術を身につけたり、昇進したりする見込みのない仕事についているから」「家事・育児・介護やストレスなどで辞めるかもしれないから」が多くなっている。

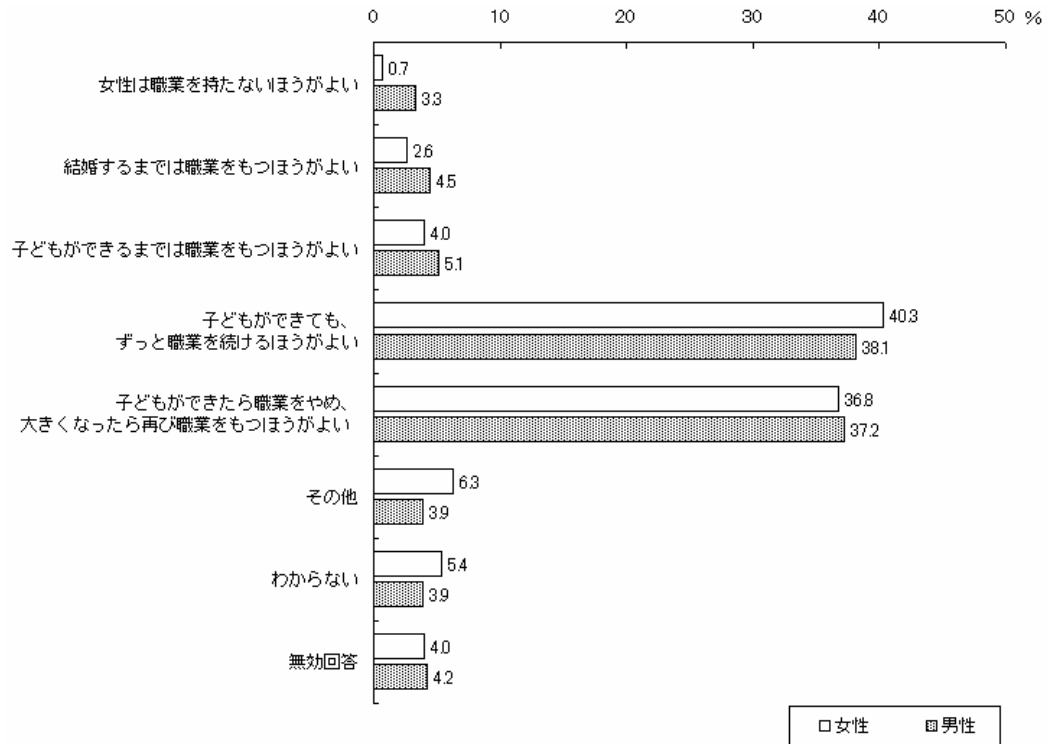


(3) 女性が職業を持つことについて

問12 あなたは、一般的に女性が職業を持つことについて、どう思いますか。

【〇は1つ】

男女とも「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」が最も多く、次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」となっている。



(4) 女性の再就職のために必要なこと

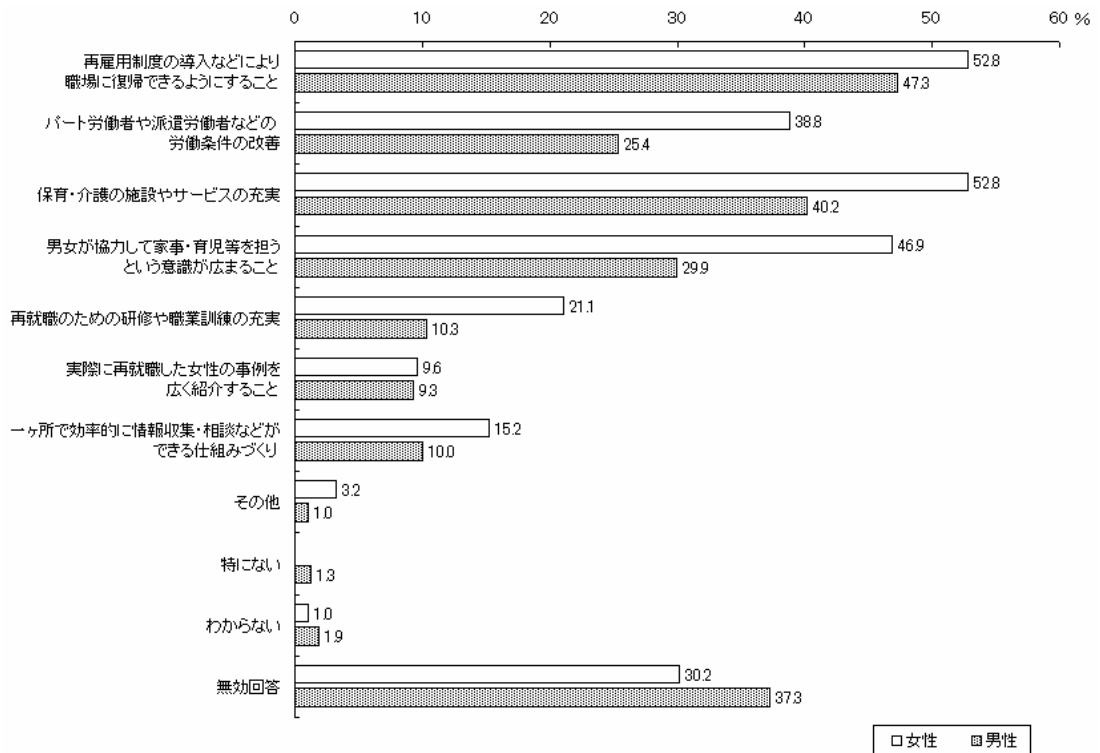
問12で「1 女性は職業を持たないほうがよい」以外を選んだ方のみお答えください。

「1 女性は職業を持たないほうがよい」を選んだ方は問14へ進んでください。

問13 出産・育児・介護などのため仕事をいったん辞めてから再就職を希望する女性が、再就職しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【〇はいくつでも】

男女とも「再雇用制度の導入などにより職場に復帰できるようにすること」と「保育・介護の施設やサービスの充実」が多くなっている。

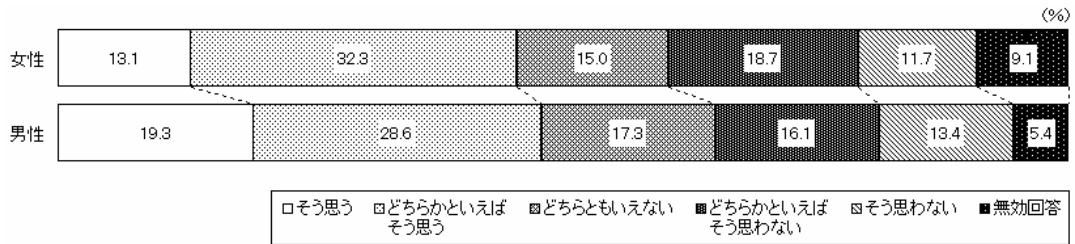


5. ワーク・ライフ・バランスについて

(1) 希望する時間の使い方ができているかどうかについて

問14 あなたは、仕事や家庭、地域・社会活動、趣味・娯楽など、自分が希望する時間の使い方ができていると思いますか。 【〇は1つ】

男女とも約半数が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しているものの、約3割は自分が希望する時間の使い方ができているとは思わないと回答している。



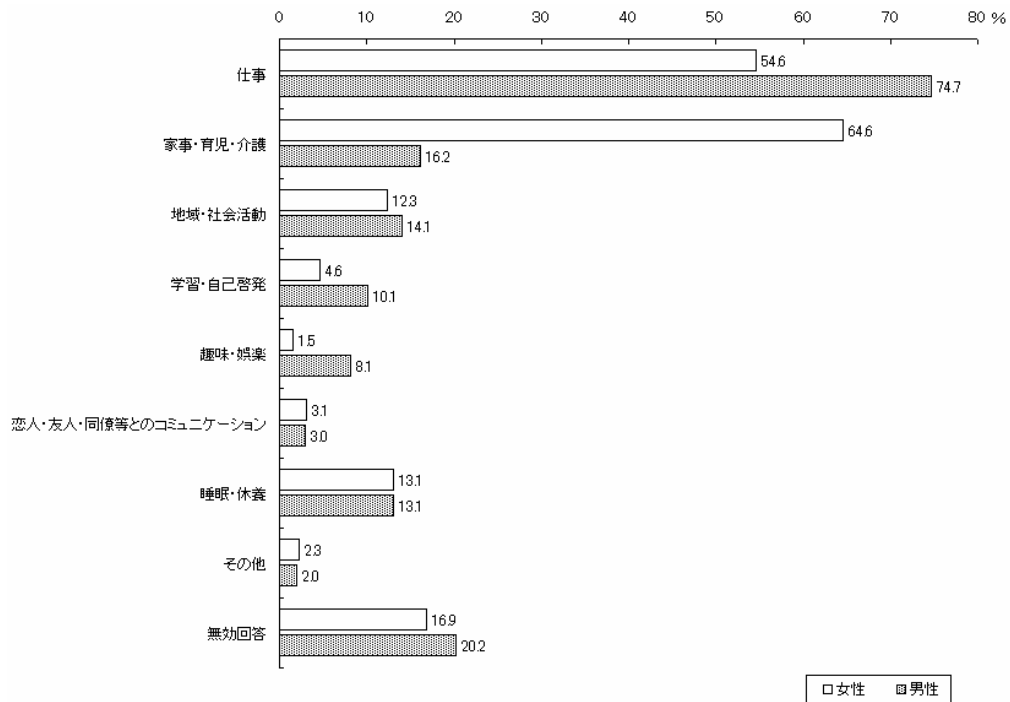
(2) 「時間を取りすぎていると思う活動」と「時間が取れていないと思う活動」

問14で「4 どちらかといえばそう思わない」または「5 そう思わない」を選んだ方のみお答えください。
 その他の方は問17へ進んでください。

問15 あなたが「時間を取りすぎていると思う活動」、「時間が取れていないと思う活動」は、どれですか。それぞれ3つまで挙げてください。

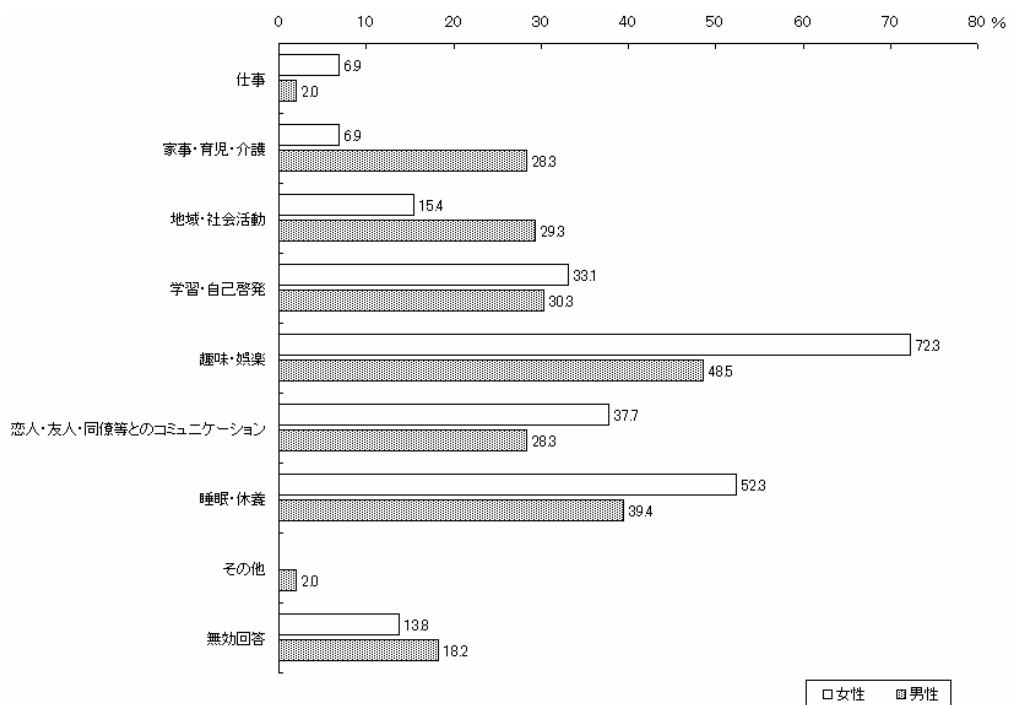
①時間を取りすぎていると思う活動

時間を取りすぎていると思う活動は、男性は「仕事」、女性は「家事・育児・介護」が最も多くなっている。



①時間を取れていないと思う活動

時間を取れていないと思う活動は、男女とも「趣味・娯楽」が最も多く、次いで「睡眠・休養」。

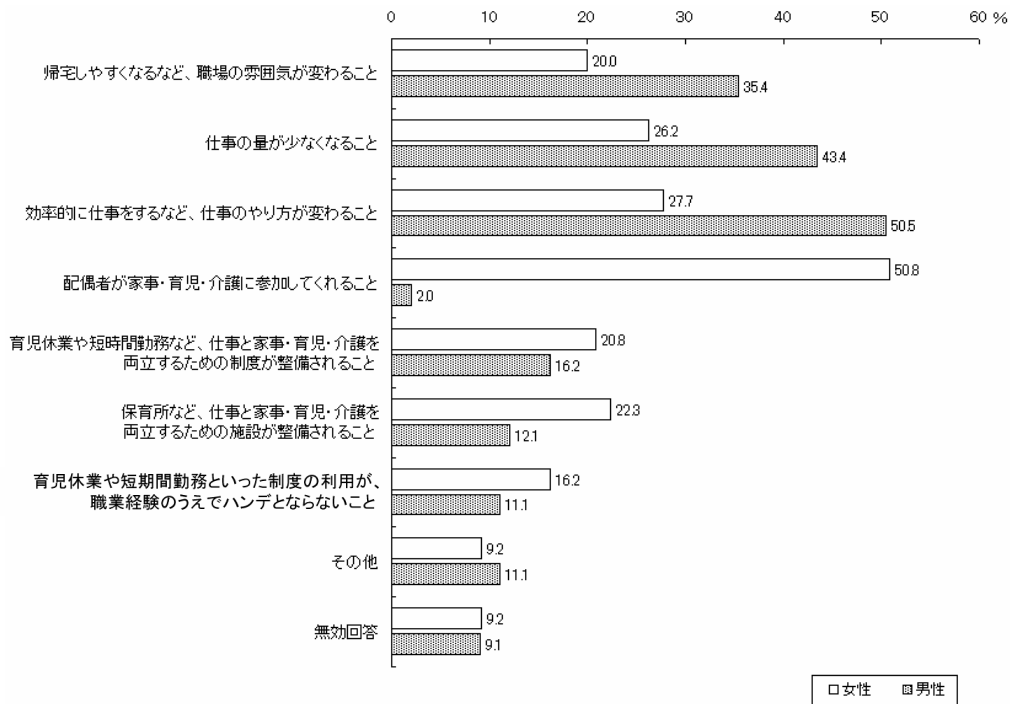


(3) 自分が希望する時間の取り方ができるために必要なこと

問16 どのようにすれば、自分が希望する時間の取り方ができると思いますか。

【〇はいくつでも】

男性は「仕事のやり方」「仕事の量」「職場の雰囲気」、女性は「配偶者が家事・育児・介護に参加してくれること」。



6. 男女間における暴力について

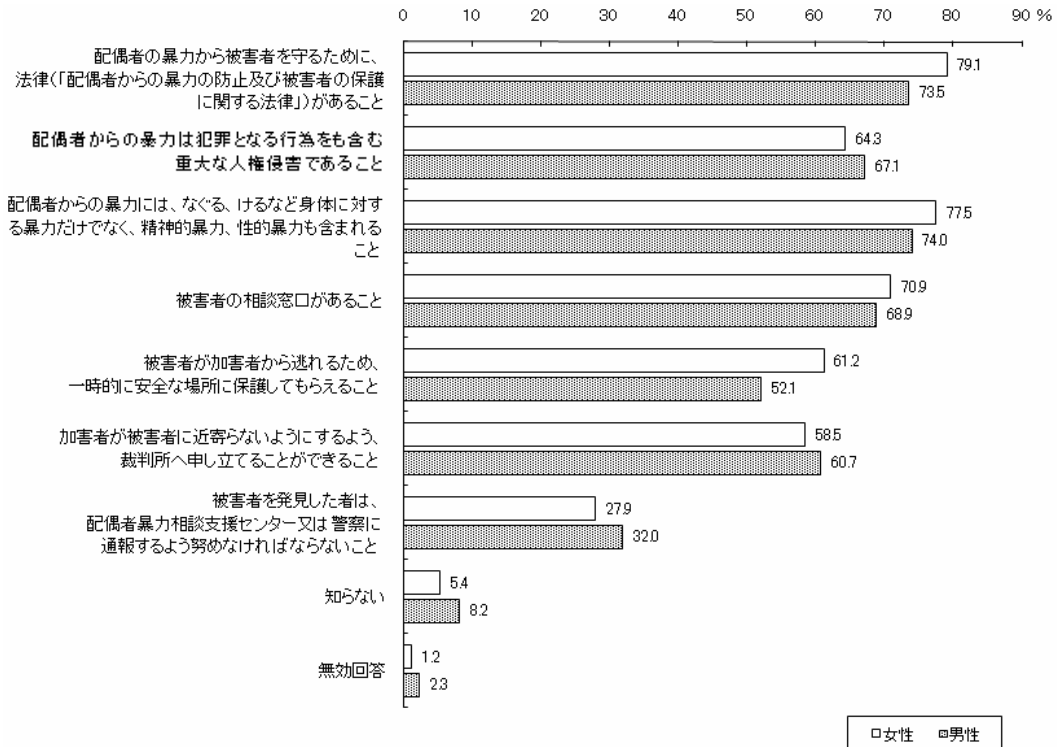
(1) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護についての認知度

問17 あなたは、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関して、次のことを知っていますか。ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。(以下、同様。)

次の中から知っているものをいくつでも選んで○をつけてください。

【○はいくつでも】

法律や相談窓口の認知度は7割程度となっている。



(2) 配偶者からの暴力の被害経験

これまでに結婚したことのある方のみお答えください。

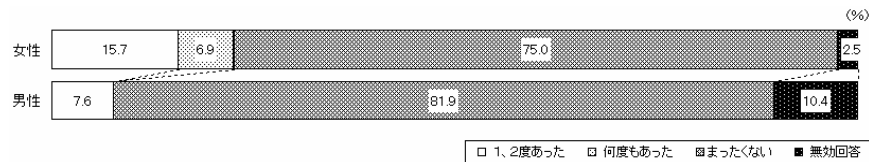
その他の方は問22へ進んでください。

問18 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。

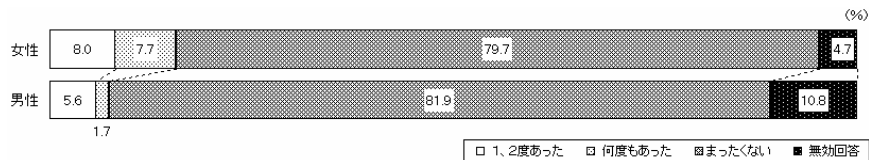
【○はそれぞれ1つつつ】

配偶者からの暴力の被害は、身体に対する暴力が最も多く、女性で22.6%、男性で7.6%となっており、いずれの暴力でも男性より女性の被害経験が多くなっている。

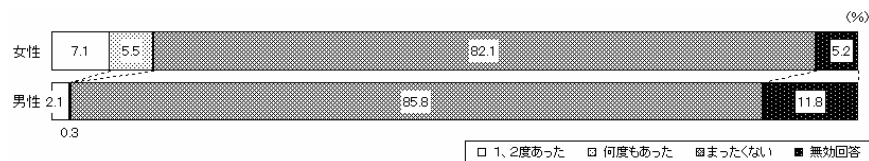
①なぐったり、けったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた



②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた



③いやがっているのに性的な行為を強要された



(3) 過去5年以内の被害経験

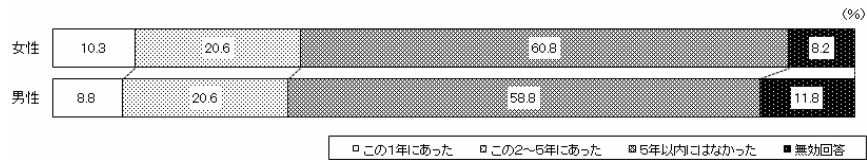
問18で①から③のうち1つでも、「1、2度あった」「何度もあった」と答えた方にお聞きます。

問19では、この1年とこの2～5年には、どうでしたか。

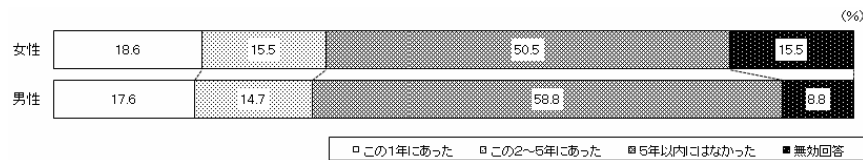
【〇はそれぞれ1つずつ】

身体に対する暴力、精神的な暴力の約3割は、この5年のうちに経験。

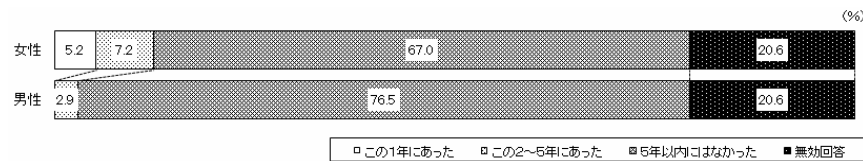
①なぐったり、けったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた



②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた



③いやがっているのに性的な行為を強要された

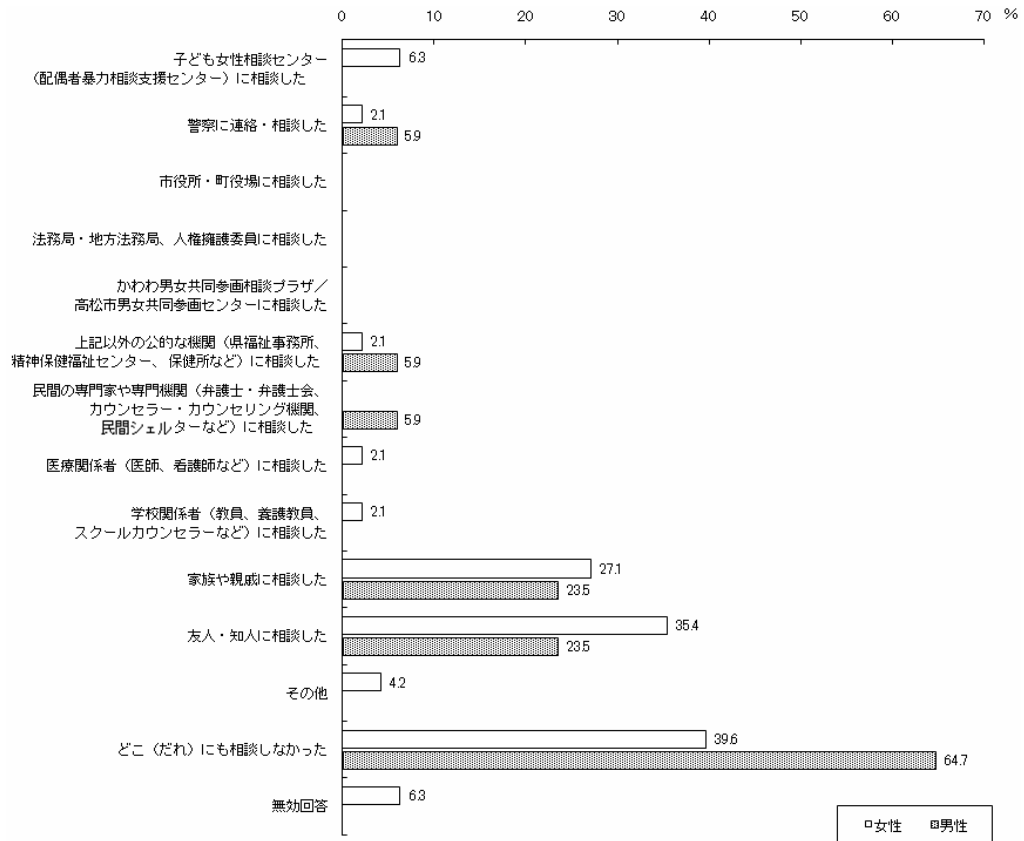


(4) 配偶者からの暴力の相談先

問19で①から③のうち1つでも、「この1年にあった」「この2～5年にあった」と答えた方にお聞きます。

問20 あなたは、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。 【〇はいくつでも】

男性の約6割、女性の約4割は相談していない。相談先として多いのは「友人・知人」「家族や親戚」。



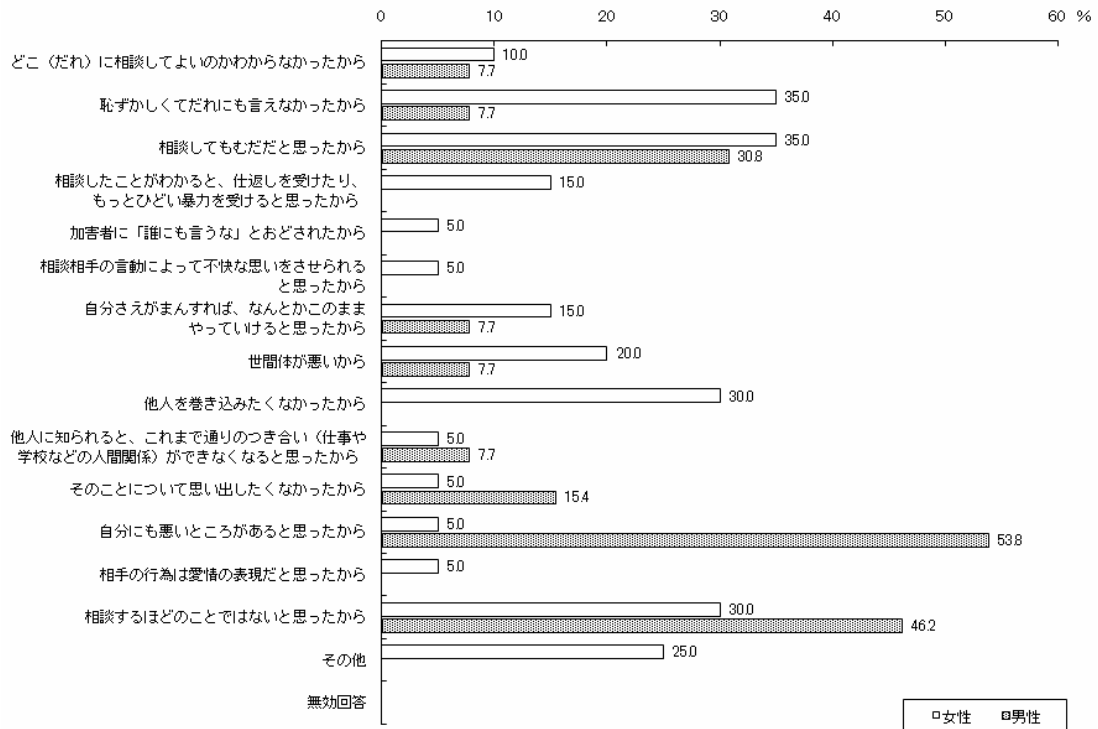
(5) 相談しなかった理由

問 20 で「13 どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。

問 21 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。

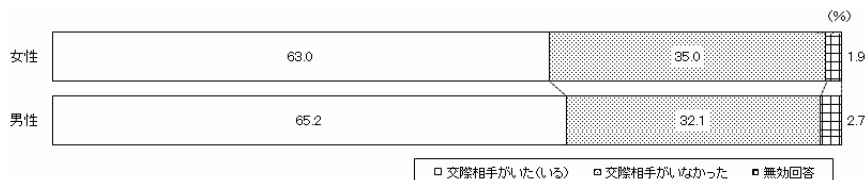
【〇はいくつでも】

相談しない理由は、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」、女性は「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」「相談してもむだだと思ったから」。



(6) 10 歳代から 20 歳代の交際相手の有無

問 22 あなたの 10 歳代から 20 歳代の経験についてお聞きします。結婚している方、結婚したことのある方については、結婚前についてお答えください。
 あなたには、その当時、交際相手がありましたか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。結婚している方、結婚したことのある方については、後に配偶者となった相手以外についてお答えください。
 【○は 1 つ】

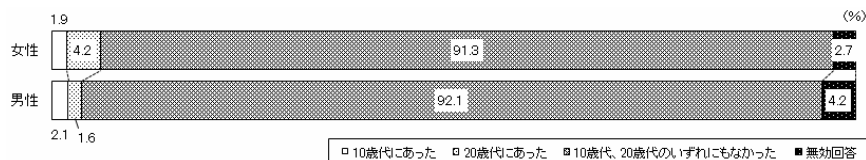


(7) 交際相手からの暴力の被害経験

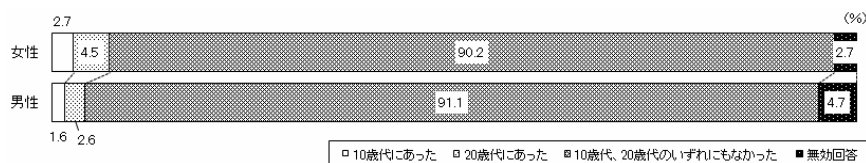
問 22 で「1 交際相手がいいた (いる)」と答えた方にお聞きします。
問 23 あなたは、10 歳代、20 歳代に、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。
 【○はいいくつでも】

交際相手からの暴力の被害は、いずれの暴力でも男性よりも女性の被害経験が多くなっている。

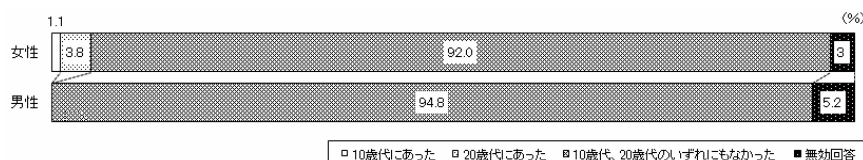
①なぐったり、けったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた



②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた



③いやがっているのに性的な行為を強要された

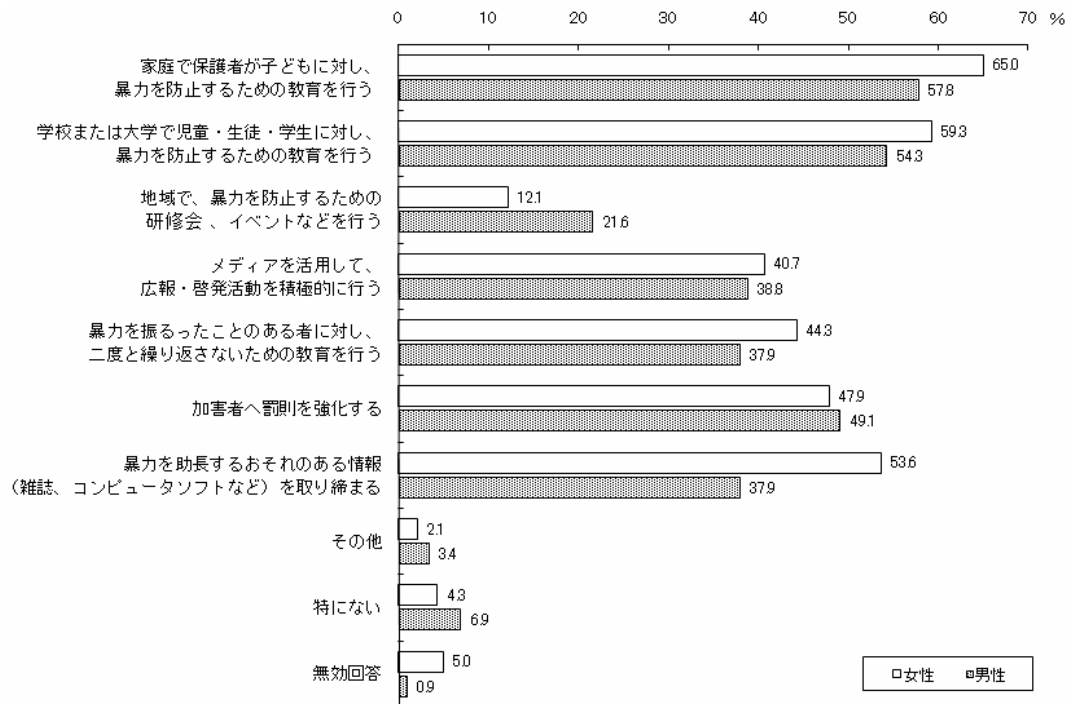


(8) 男女間における暴力を防止するために必要なこと

問24 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。

【〇はいくつでも】

「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」「学校または大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」ことが必要との回答が多くなっている。

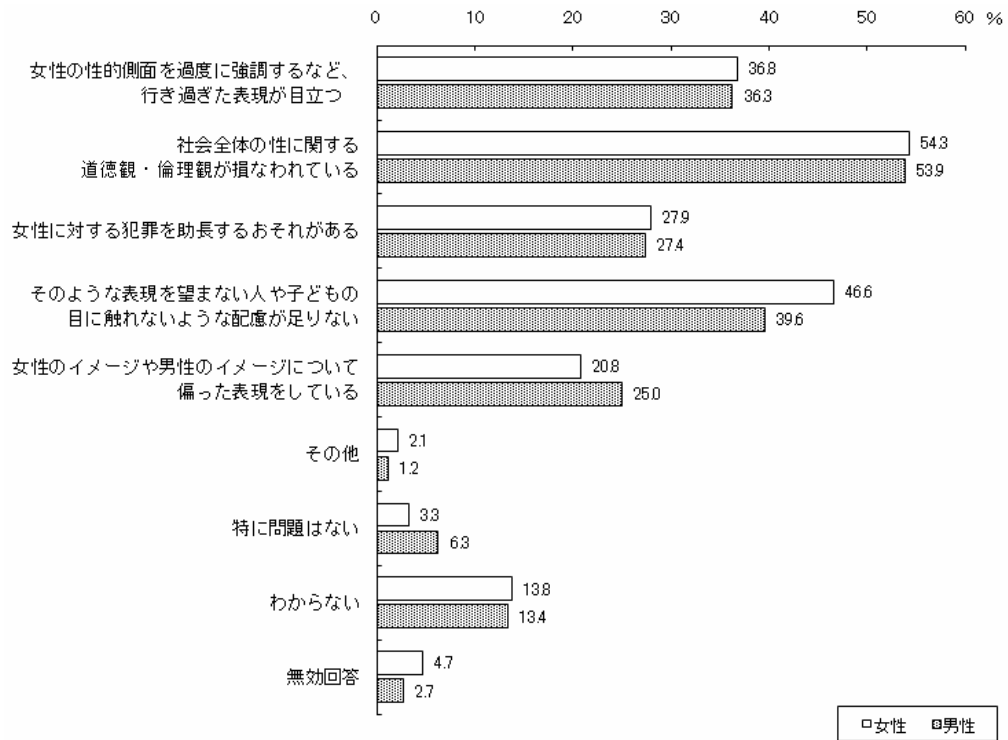


(9)メディアにおける性・暴力表現について

問25 あなたは、メディアにおける性・暴力表現について、どのようにお考えですか。

【〇はいくつでも】

男女とも「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」を挙げる人が多くなっている。



7. 男女共同参画社会の形成について

(1) 男女共同参画社会の形成のために行政が力を入れていくべきこと

問26 あなたは、男女共同参画社会を形成していくために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。 【〇はいくつでも】

「保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が最も多くなっている。

